

# 農林漁食

Agriculture, Forestry,  
Fisheries & Food

月曜日 掲載(第1月曜除く)

## 県産農畜産物の輸出は？

# 右肩上がり9年で15倍

2013年度の県産農林水産物の輸出額は、県が正式に調査を始めた07年度以降で最高の24億4200万円になりました。7割近くは水産物ですが、農畜産物も3億300万円と過去最高でした。今回の知り隊は、農畜産物の輸出に迫ります。

(大路秀紀)



随時掲載

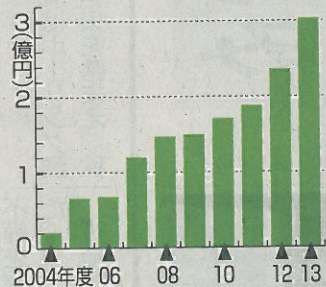
まず押さえておきたいのは、04年度に県産農畜産物の輸出が本格化して以降、輸出額は右肩上がりに増え続け、9年間で15倍近くに増えた点です。円高や原発事故による日本農産物への風評被害などで輸出に不利な情勢もありましたが、着実に増えました。

当初はミカンやナシ、イチゴといった果物に限られていた輸出品目も、9年間で多様に。果物はもちろん牛肉に牛乳、トマトやナスのほか、豚肉「りんどうポーク」や地鶏「天草大王」など、熊本ならではのブランド農畜産物の輸出も始まりました。

輸出先は香港や台湾、シンガポールなどアジアが中心です。13年度は香港向けが前年度から23%増えて1億7300万円、台湾向けは6%増えて2700万円になりました。



輸出用に新たに整備した農業用倉庫で、香港に輸出するカボチャを手にする「たかき」の高木淳社長(右)と娘で取締役の明日香さん=八代市



12年度から急速に輸出が拡大し、13年度はさらに41%増えて3500万円になりました。香港やシンガポールで開いたフェアで、「焼き芋」の形で売ったところ大好評でした。農畜産物の輸出は、モノだけでなく食べ物方も一緒に提案すべきだ、という良い例です。

もう一つはコメ。国内の需要が減る中で、アジアの富裕層へ売ろうという動きは全国で加速しています。県産米の輸出も13年度は25%増えて1400万円に。農機メーカーがJAGグループと組み、玄米のまま輸出して現地で精米して売ると

## オール九州で出荷協力を／農家所得向上を忘れずに

いった、新しい形も生まれています。

さて、政府は現在5505億円の農林水産物や食品(酒やみそなど)の輸出額を、20年までに1兆円、30年までに5兆円に増やす目標を掲げています。輸出を伸ばすためには、どんな努力が必要なのでしょう。

香港にキャベツやハクサイを輸出している八代市の農業法人「たかき」の高木淳社長(55)は「現地の人の口に合うものを輸出すべきだ」と言います。同社はこれまで新たに、香港向けに甘い品種のカボチャの輸出も始めました。現地で甘い野菜が好まれることが分かったからです。

「九州の農家が競争するのではなく、もっと協力すべきだ」とも言います。九州の農産物を一定量集めてアジア各地に定期的船便で輸出できれば、輸送コストは大きく低下します。九州の産地で時期ごとにリレー出荷ができれば、商品を絶やさず売り場を確保し続けられます。

大切な視点は「輸出は農家所得を上げるため」という目的を忘れないこと。額を伸ばすことばかり重視し、コストがかさむ輸出をしても意味はありません。日本の農畜産物の価値を理解し、認めてくれる海外の販売者と組むべきです。